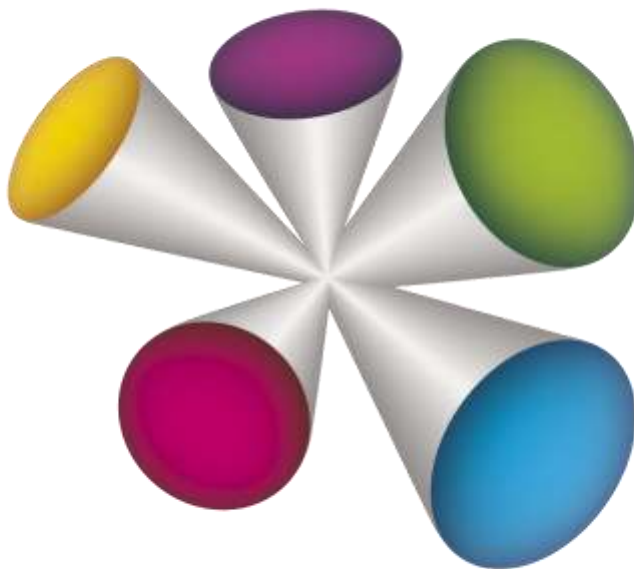


第29期(2012年3月期) 連結決算説明

株式会社ワコム
(東証1部:6727)



目次

スライドページ

- P 3 – 5 決算概況
- P 6 -10 損益および販売管理費
- P11-16 事業ハイライト
- P17-18 製品ライン別売上高
- P19-21 所在地別売上高
- P22-23 貸借対照表およびキャッシュフロー
- P24-27 当期の基本方針
- P28-30 当期損益業績予想
- P31-32 配当金見込み
- P33-34 中期経営計画
- P35-37 ブランディング
- P38 本資料取扱い上の注意点

第29期(2012年3月期)決算概況

事業環境

- 米国経済が底堅く推移した一方、欧州債務問題による信用不安は拡大、新興国の成長ペースも鈍化。為替は対ドル・対ユーロで円高が進行。
- 東日本大震災によるサプライチェーン混乱は第1四半期で収束、国内需要への影響も限定的にとどまる。さらに、タイ洪水災害が発生するも、継続的な事業リスク管理により当社業績に影響なし。
- IT分野はスマートフォンやタブレット端末市場が急成長、PCメーカーや携帯端末メーカーの製品ライン拡充が進展。
- 当社事業関連では、スマートフォンやタブレット端末でのペン入力のニーズが急拡大。さらに、ペーパーレスや高セキュリティ化の進展により、電子サイン分野も成長。

第29期(2012年3月期)決算概況

業績概況

- タブレット事業で過去最多の新製品を投入、プロ向け液晶タブレットやiPad向けBamboo Stylusなどが想定以上に貢献、コンポーネント事業もスマートフォン向けの急拡大により、急速な円高の影響を吸収して過去最高の連結売上高を達成。
- 営業利益は、円高進行のもと、下期に25期(2008年3月期)の過去最高に次ぐ水準を達成し、営業利益率も10%に回復。
- 営業外では、将来の財務リスク回避のため、厚生年金基金脱退を決議し、特別掛金および解決金などを特別損失として計上。

第29期(2012年3月期)決算概況

連結財務サマリー

	当期実績	前期比	
売上高	407.1億円	+23.2%	売上高 最高値を更新
営業利益	40.7億円	+25.1%	
経常利益	38.9億円	+15.7%	
税引前当期純利益	35.0億円	+18.7%	特損計上 厚生年金基金脱退特損 254百万円
当期純利益	21.8億円	+10.9%	
	当期実績	前期実績	
1株当たり純利益	5,464円	4,895円	自己株式取得 5,000株(439百万円)
1株当たり純資産	47,350円	45,917円	

連結損益計算書

(単位:百万円)

	第28期	第29期	対前期比較	
	2011年3月期	2012年3月期	増減額	増減率
売上高	33,030	40,706	7,675	23.2%
売上総利益	15,634	17,896	2,261	14.5%
売上総利益率	47.3%	44.0%		
営業利益	3,252	4,067	815	25.1%
営業利益率	9.8%	10.0%		
経常利益	3,363	3,892	528	15.7%
当期純利益	1,967	2,181	214	10.9%

- 平均為替レート：第28期 1ドル 85.82円、1ユーロ 113.56円
第29期 1ドル 79.30円、1ユーロ 110.17円

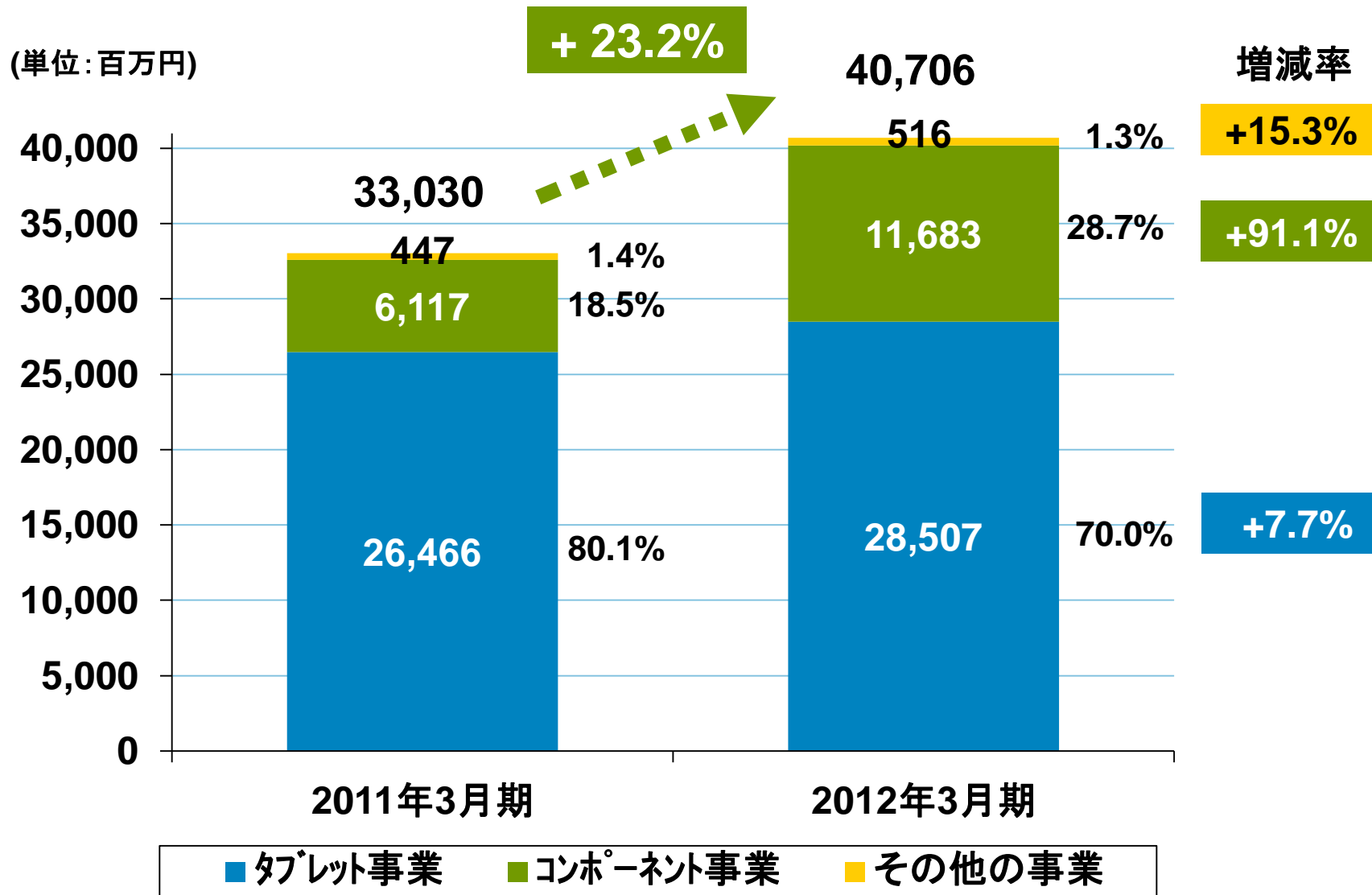
為替変動影響(円高)：売上高 20.4億円減
営業利益 2.0億円減

連結事業別セグメント

(単位:百万円)

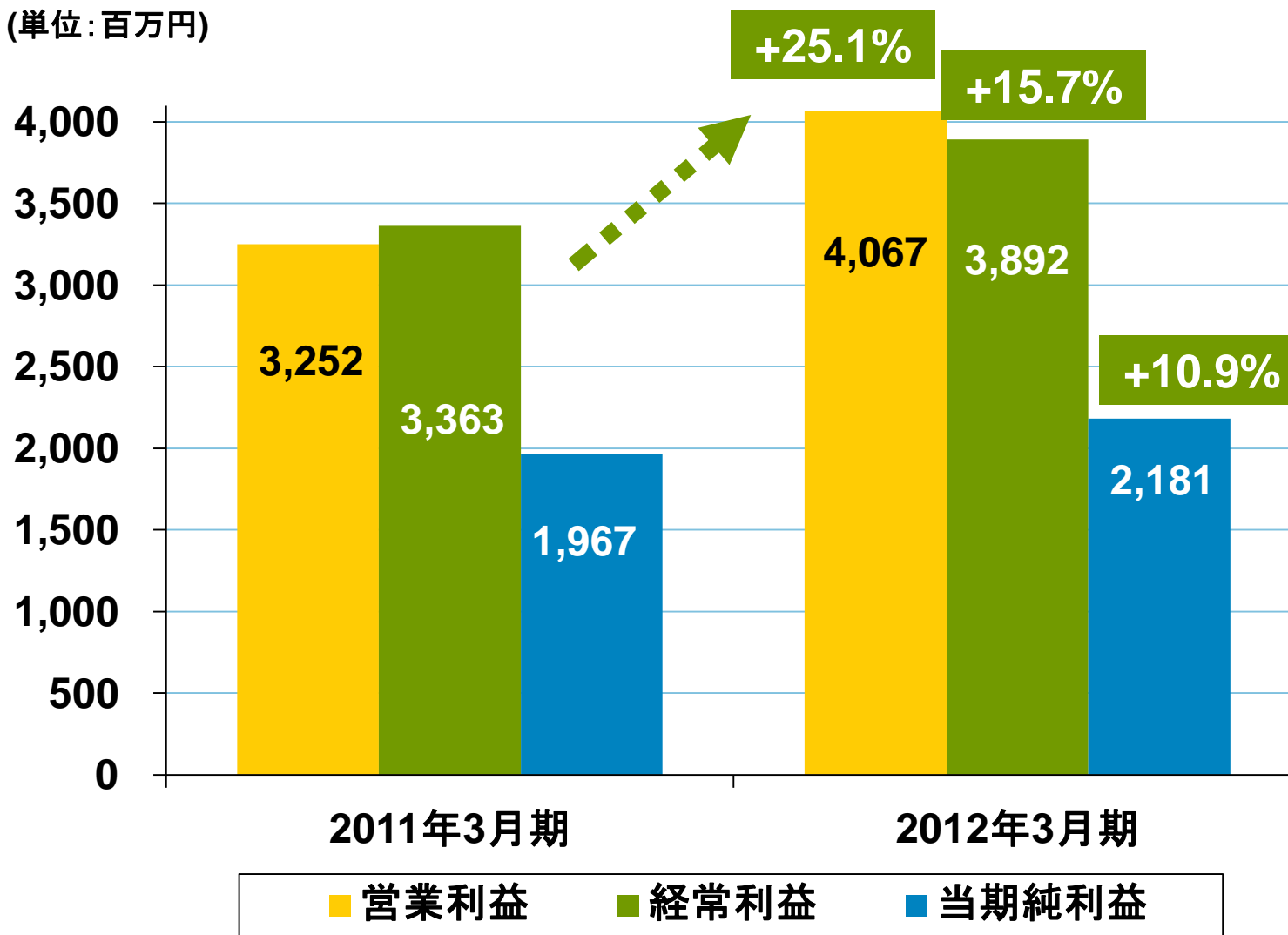
	第28期	第29期	対前期比較	
	2011年3月期	2012年3月期	増減額	増減率
売上高	33,030	40,706	7,675	23.2%
タブレット事業	26,466	28,507	2,041	7.7%
コンポーネント事業	6,117	11,683	5,566	91.0%
その他の事業	447	516	69	15.3%
営業利益	3,252	4,067	815	25.1%
タブレット事業	5,630	5,125	△505	△9.0%
コンポーネント事業	△236	1,091	1,326	-
その他の事業	△150	70	220	-
コーポレート他	△1,992	△2,218	△226	11.3%
営業利益率	9.8%	10.0%		

連結売上高比較



連結利益比較

(単位:百万円)



販管費及び一般管理費の主な内訳

(単位:百万円)

	第28期	第29期	対前期比較	
	2011年3月期	2012年3月期	増減額	増減率
人件費	4,681	5,214	534	11.4%
研究開発費	1,291	1,842	552	42.8%
販促・広告宣伝費	1,921	2,063	142	7.4%
その他	4,490	4,708	218	4.9%
販管費合計	12,382	13,828	1,446	11.7%
売上高販管費率	37.5%	34.0%		

主要増加項目

増加 : 新製品の研究開発費。人員増 (連結ベース従業員数 前期末 747名 → 当期末785名)。震災対応での費用増など。

事業ハイライト -1

タブレット事業

+7.7%

プロフェッショナル製品

+12.3%

ペンタブレット +2.7%

- Intuos5を3月1日にリリース。HUDやマルチタッチなど新機能を搭載。グラフィックスのプロユーザから高い評価を受ける。
(HUD ヘッドアップディスプレイ:視線の先に機能設定を表示する機能)
- 10月発表のデジタルスケッチペンInklingが好評、紙とペンの文具の様な使い勝手を再現。

液晶タブレット +36.4%

- 9月に最上位機種となるCintiq 24HDを発売、プロ待望の表現力と操作性を備えたフラッグシップモデルとして好調な売上げ。
- Cintiq 21UXは、液晶供給問題が上期に解消、下期もグローバルに旺盛な需要が継続。

intuos.5



Inkling™



Cintiq. 24HD
Interactive pen display



事業ハイライト -2

コンシューマ製品

+13.0%

- 新分野としてリリースしたiPad向けアクセサリペンBamboo Stylusの販売が好調。快適なペン入力に、各国のメディアからも高い評価を受ける。
- iPad用手書きアプリBamboo Paperが6月リリースから累計250万ダウンロード突破。
- 9月にペンタブレットBambooシリーズの第3世代を投入。各種ソフトと組み合わせグローバルに50モデル以上を展開、マルチタッチ機能は10本指対応に進化。

BAMBOO® STYLUS



BAMBOO® PAPER



BAMBOO®
PEN & TOUCH



事業ハイライト -3

ビジネス製品

-21.4%

- 北米市場において一部OEM製品の供給が終了し、前期比で大幅に減少。
- 電子サイン用製品の売上が前期比で倍以上。欧州に続き、北米や国内などでも導入拡大。
(事例) ららぽーと(日) 他
- 国内市場は、震災の影響を受けながらも医療分野の需要が増大。
- ペーパーレス業務をサポートする手書きソフトウェア「Wacom Allwrite」を2月に発表。



(2012年4月発売)

電子サイン用 液晶タブレットSTUシリーズ



DT / PLシリーズ



wacom®

事業ハイライト -4

コンポーネント事業

+91.0%

- Samsung社がGalaxy Noteにペン技術を採用、下期より量産開始、需要が急拡大し業績に貢献。
- 最新Android 4.0 OSがペン機能を標準サポート、電子ペンの筆圧、高さ、傾きなどを検出。
- Windows OS タブレットPC向けの需要は継続、e-Book向け売上も拡大。
- 次期 OS Windows 8搭載のタブレット端末向けに新型タッチICコントローラーを開発。

Android OS
スマートフォン、
タブレット端末 採用例

SAMSUNG



E人E本



Windows OS タブレットPC 採用例

hp



lenovo



FUJITSU



Panasonic
ideas for life



ASUS



wacom

事業ハイライト -5

その他の事業

+15.3%

電子設計用CAD製品他

- 主力ソフトウェア製品 ECAD DIOの販売が順調。装置系メーカー向けのハーネス機能も高い評価を受ける。
- 9月にはハーネス機能を強化したECAD DIO 2012をリリース。



管理部門

- グローバルERPシステムが8月より順調に稼動。
- 特別損失の計上
 - 厚生年金基金脱退損失・・・財務リスク回避 253百万円(特別掛金・和解金)
 - 東京支社移転費用・・・グローバル展開のハブ(中枢)機能強化 59百万円
 - 本社震災復旧費用・・・製品開発、SCM管理等の効率性向上 37百万円
- 収益認識方法を出荷基準から顧客納品時点に変更(国際的な会計処理等)
(遡及適用の影響額:前年同期売上高 -44.8百万円、営業利益 -32.2百万円等)

事業ハイライト -6

2012年3月期 主な新製品一覧

タブレット事業

Intuos5

Inkling

Cintiq 24HD

Bamboo シリーズ

Bamboo Stylus

Bamboo Paper



コンポーネント事業

Galaxy Note向けペン

E人E本(電子書籍)向けペン

ASUS、タブレット端末ペン



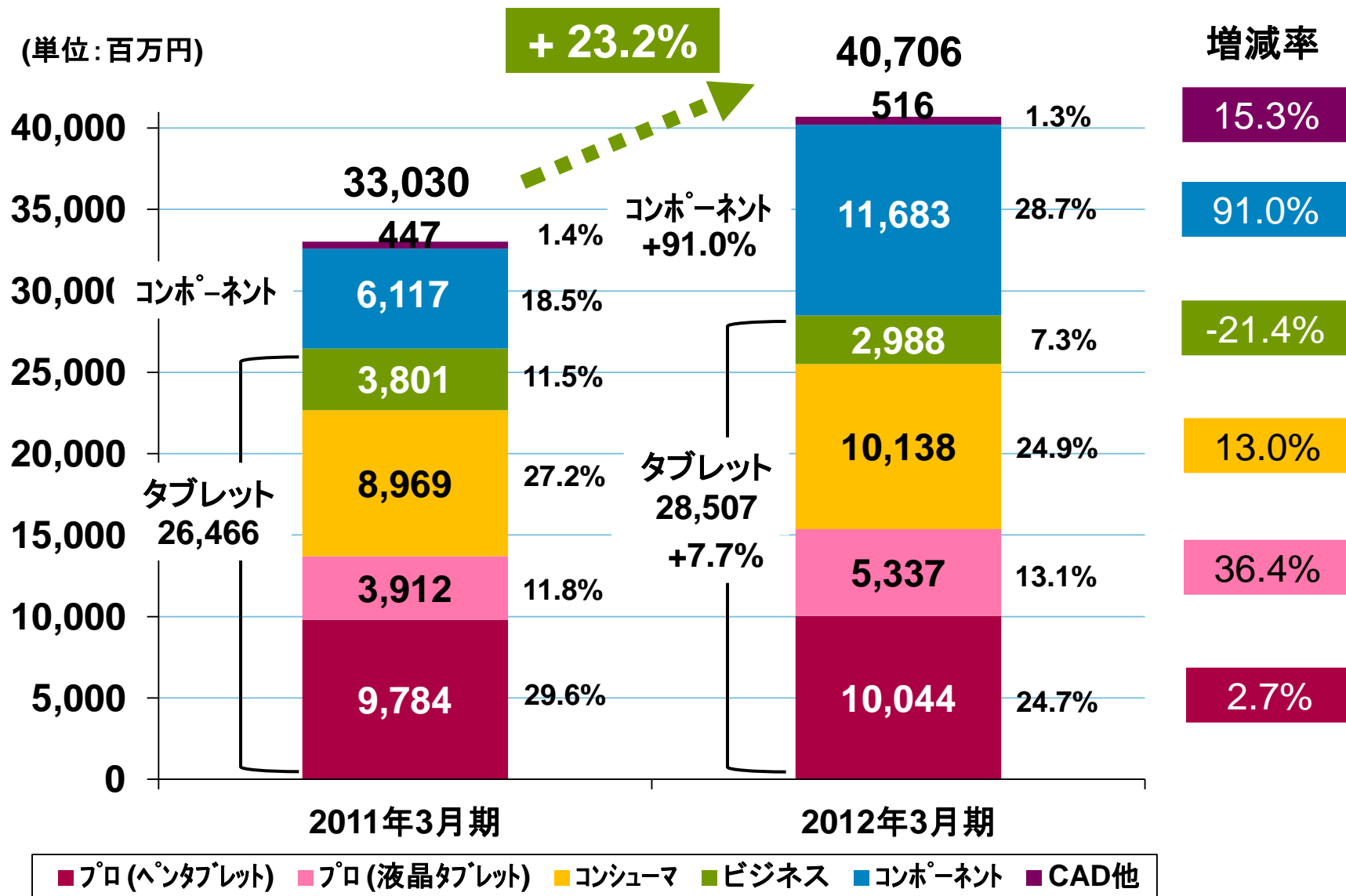
その他の事業

ECAD dio 2012

ECAD DIO[®] The Power To Innovate[™]

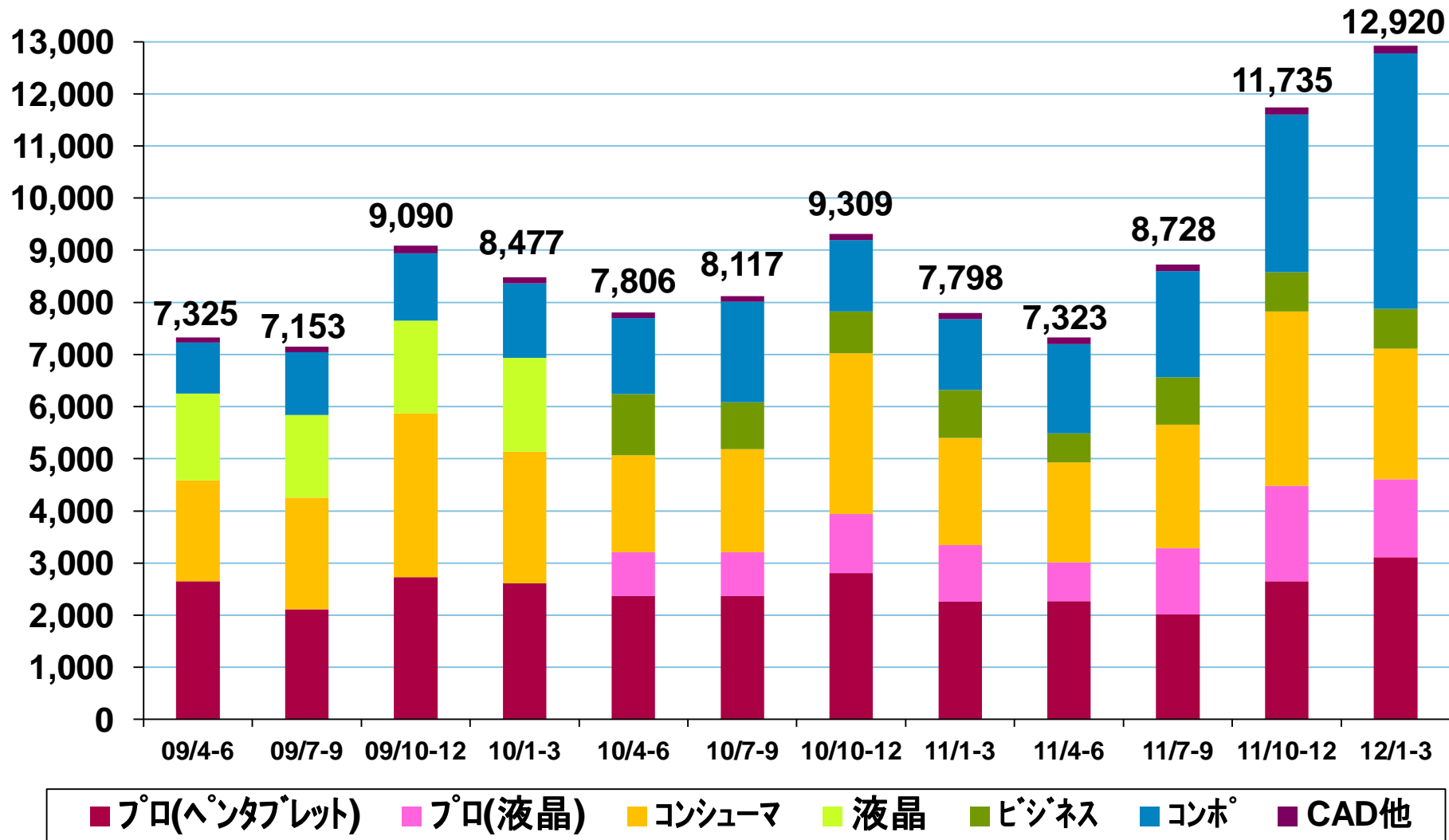


製品ライン別売上高



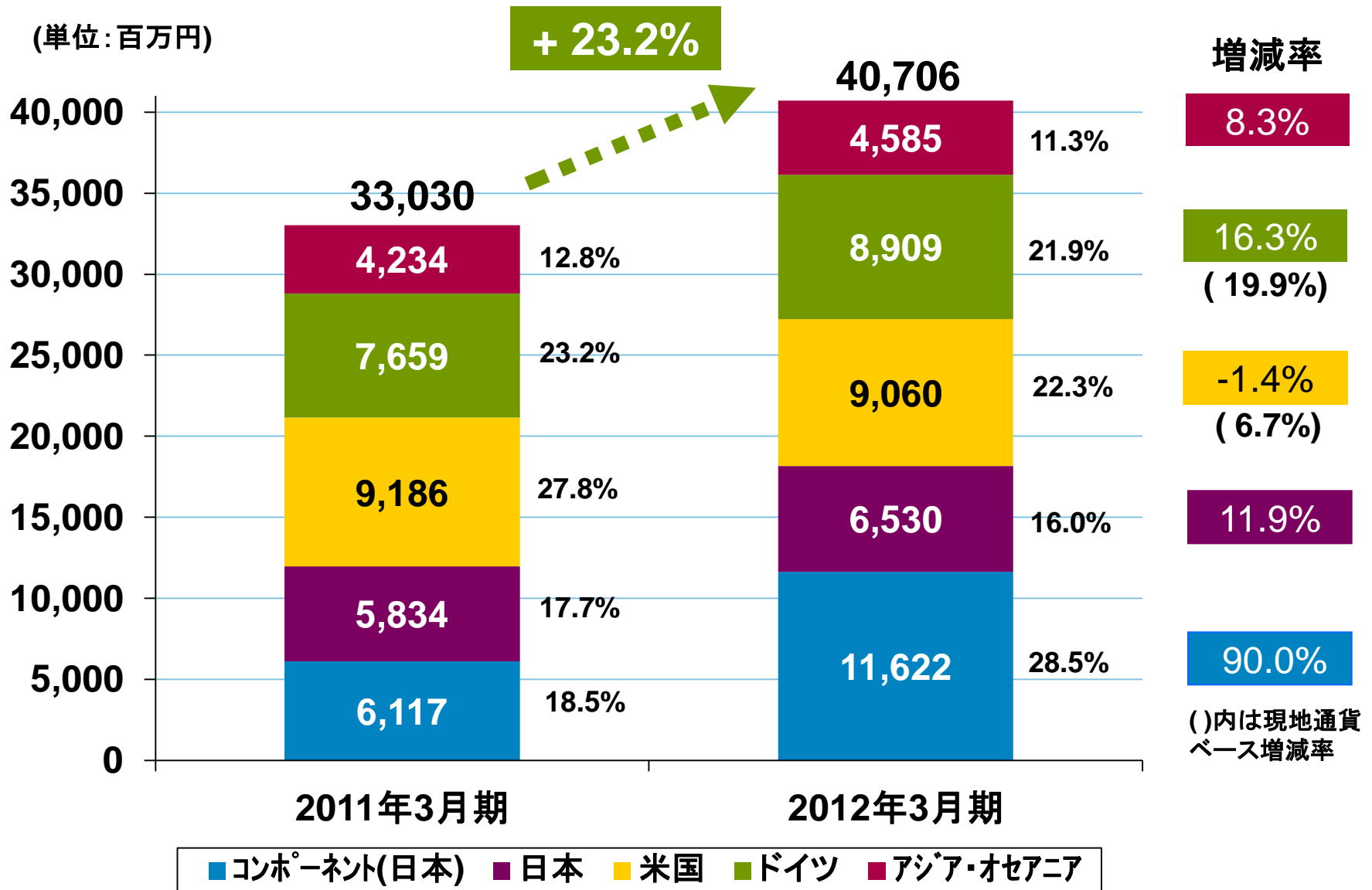
製品ライン別売上高推移

11/4-6より製品ラインを用途別に「プロ(ペンタブレット)」「プロ(液晶)」「コンシューマ」「ビジネス」「コンホ°」「CAD他」とし、以前の
 (単位:百万円) 「液晶」のうちCintiqシリーズは「プロ(液晶)」、コンシューマの一部は「ビジネス」に変更。10/4-6より遡及数字を掲載。



所在地別売上高

(単位:百万円)



現地通貨ベースの売上高増減率

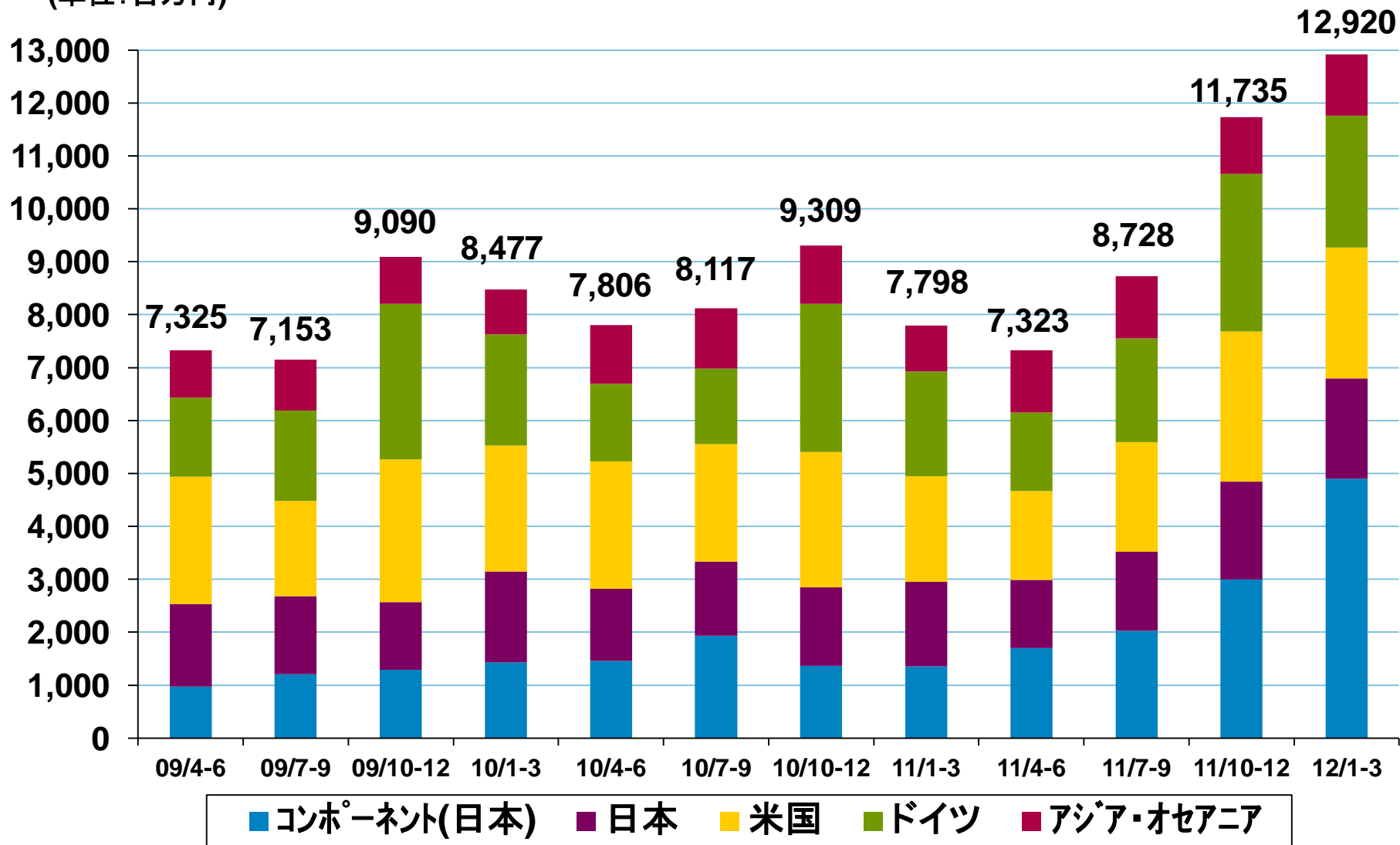
・グローバル全地域で売上げ拡大

	(前期比)
・ 米国(USドル)	6.7%
・ 欧州(ユーロ)	19.9%
・ 中国(中国元)	12.7%
・ 韓国(韓国ウォン)	5.2%
・ 豪州(豪ドル)	12.2%
・ シンガポール(USドル)	22.1%
・ 香港(USドル)	2.6%

一部OEM供給終了の影響
(影響除く場合 約+25%)

所在地別売上高推移

(単位:百万円)



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2011年 3月末	2012年 3月末	増減額
流動資産	20,950	27,490	6,540
固定資産	6,144	6,639	496
資産合計	27,094	34,129	7,036
流動負債	7,556	14,196	6,640
固定負債	1,056	1,016	△40
負債合計	8,612	15,212	6,600
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	18,482	18,918	436
負債純資産合計	27,094	34,129	7,036
自己資本比率	68.1%	55.2%	△12.9%
一株当たり純資産 (単位:円)	45,917	47,350	1,434

資産

(単位:百万円)

- ・ 売上債権の増加 2,958
(主な要因)
事業の規模増等
- ・ 現預金の増加 1,515
- ・ たな卸し資産の増加 1,308
(主な要因)
タブレット事業の新製品リリース等
- ・ 短期繰延税金資産の増加 559

負債

- ・ 仕入債務の増加 4,313
- ・ 未払法人税等の増加 1,154

純資産

- ・ 利益剰余金の増加 976
(前期末13,800 ⇒ 当期末14,776)
- ・ 自己株式取得 △439

連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	第28期	第29期	対前年 同期比較
	2011年 3月期	2012年 3月期	増減額
営業活動	1,179	4,881	3,702
投資活動	△1,470	△1,697	△227
財務活動	△1,202	△1,627	△425
現金に係る 換算差額	△402	△41	361
現金増減額	△1,895	1,515	3,410
現金期首残高	12,350	10,455	△1,895
現金期末残高	10,455	11,970	1,515

営業活動 (単位:百万円)

- ・ 仕入債務の増加 4,346
- ・ 税金等調整前当期純利益 3,505
- ・ その他流動負債の増加 886
- ・ 売上債権の増加 △3,115
- ・ たな卸資産の増加 △1,372
- ・ 法人税等の支払 △670

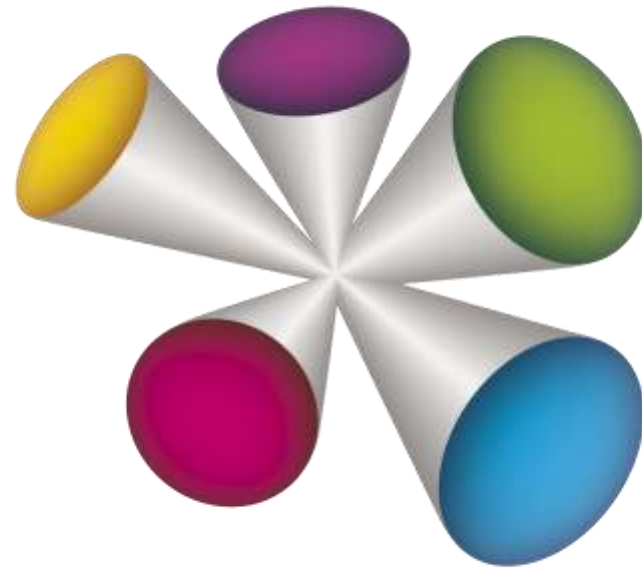
投資活動

- ・ ソフトウェア取得 △865
(グローバルERP等)
- ・ 有形固定資産取得 △526
(金型等)
- ・ 投資有価証券の取得 △168
(Twinwill社:タッチパネル製造委託先)

財務活動

- ・ 配当金支払額 △1,201
- ・ 自己株式の取得 △440

第30期(2013年3月期) 基本方針と主要施策



第30期(2013年3月期)の基本方針

事業環境

- 世界経済は、欧州信用不安の長期化などリスク要因を抱えながらも穏やかに拡大。為替は、ユーロ安と米国金融緩和策により円高基調が継続と予想する。
- 日欧米の経済成長が鈍化するなか、中国やインドなど新興地域が世界経済を牽引し、IT市場の拡大エンジンとなる。
- IT市場においては、PCに代わって、スマートフォン・タブレット端末・電子書籍端末などが、主要プラットフォームとしての地位を確立し、成長を牽引する。
- UI分野では、マルチタッチが標準化するとともに、ペン入力の認知とニーズが拡大する。

第30期(2013年3月期)の基本方針

当社の基本戦略

- **ペンタブレットのグローバルリーダーシップ強化**
 - 新製品の投入と効果最大化による成長の加速
 - タブレット端末向けペン製品ライン拡大と事業モデル確立
 - ビジネスソリューション分野のライン拡充と成長
 - 中国SCM機能強化と現地生産体制の拡充
 - 「タブレット事業」を「ブランド製品事業」に改称し、グローバルブランディング投資を拡大
- **コンポーネントの事業モデル変革と成長加速**
 - Android OS対応スマートフォン、タブレット端末向けリーダーシップ強化
 - Windows OS対応 タブレット端末市場でのリーダーシップ確立
 - スマートフォンビジネスに対応する応答性の高いSCM体制の構築

第30期(2013年3月期)の基本方針

当社の基本戦略

- 日本、アジア市場の基盤強化と成長の加速
 - 国内市場の新規需要創出とアジアマーケティング強化
 - 業務プロセスの再構築とSSCの構築
(SSC シェアードサービスセンター：間接業務などを集中化させた組織)
- 新技術、新製品開発の強化
 - 次世代UI技術開発の推進
 - ソフトウェア戦略の構築とアプリケーション開発力の強化
- グローバル連携による競争力の強化
 - グローバルなマーケティング連携の強化とブランディングの強化
 - 本社機能のグローバル化推進

連結損益業績予想の前提

- 市場動向は、4月中旬に実施の業績予想レビューに基づく。

- 為替想定レート的前提（通期・12ヶ月平均）

1USD = 75円、1EUR = 100円

- 為替感応度予想（通期・12ヶ月分）
（単位：百万円）

通貨	USDドル	ユーロ
感応度の単位	1円	1円
売上高	400	100
営業利益	20	70

※ 各通貨が1円の円高の場合はマイナス、円安の場合はプラス

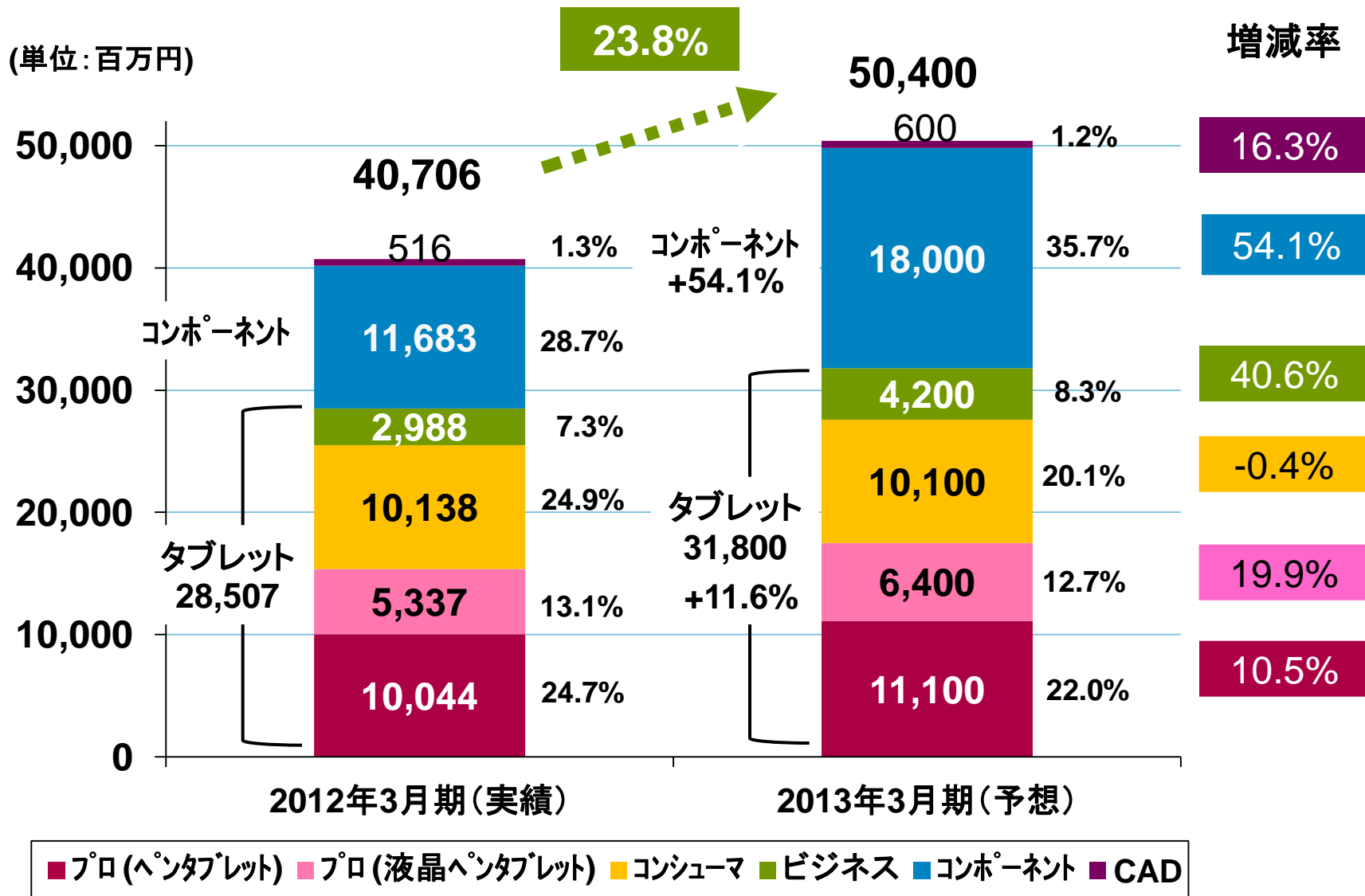
連結損益予想

(単位:百万円)

	第29期中間期		第30期中間期		対前年同期比較
	2011年4-9月期		2012年4-9月期		増減率
売上高	16,051		20,370		26.9%
営業利益	892	5.6%	950	4.7%	6.5%
経常利益	890	5.5%	940	4.6%	5.6%
当期純利益	542	3.4%	592	2.9%	9.3%

	第29期		第30期		対前期比較
	2012年3月期		2013年3月期		増減率
売上高	40,706		50,400		23.8%
営業利益	4,067	10.0%	5,600	11.1%	37.7%
経常利益	3,892	9.6%	5,570	11.1%	43.1%
当期純利益	2,181	5.4%	3,600	7.1%	65.0%

連結損益予想 セグメント別売上高(前期比)



第30期(2013年3月期)配当金見込み

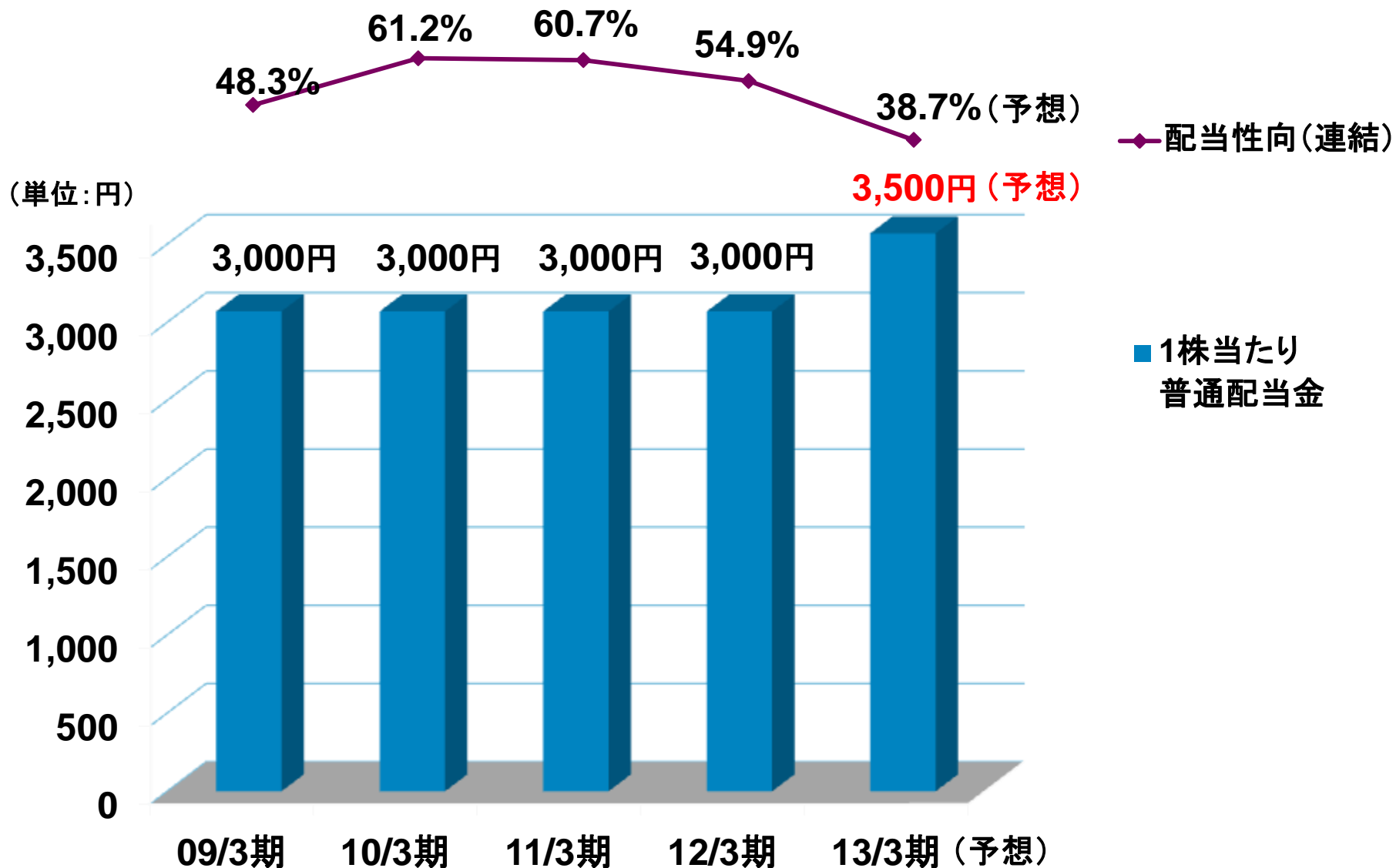
- **配当の基本方針**

- 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続する
- 配当性向は連結ベースで30%以上を目標とし、継続的な向上を目指す

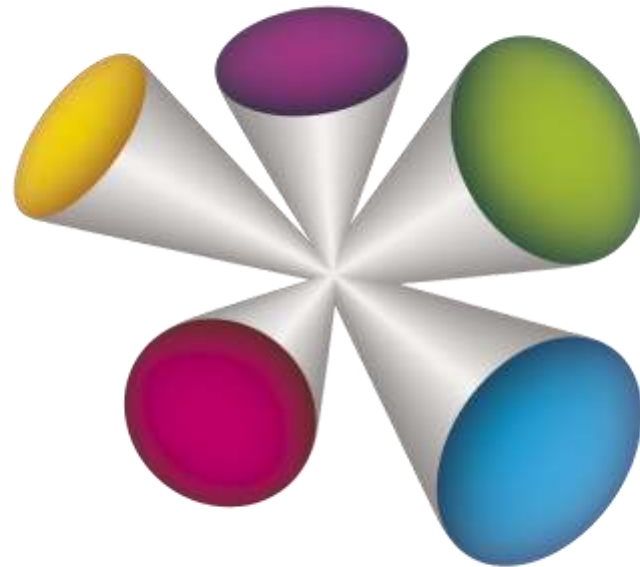
- **1株当たり配当金**

- 配当金 3,500円 (前期 3,000円)
- 配当性向 38.7% (自己株式 25,000株控除後)

一株当たり配当金推移



中期経営計画について



中期経営計画 -WP1015

WP1015: 財務目標

連結売上高: 1,000億円以上

連結営業利益率: 15%以上



2012年3月期の経営実績とIT市場の急速な構造変化を勘案し、中期計画を見直し中。但し、引き続き財務目標は維持。

当面は、売上げの成長と営業利益率、ROEの改善、年次計画の確実な達成を目指す。

新しいUIの時代へ

世界のどこでも
だれにとっても
シンプルで、直感的で
分かりやすく、楽しく
いつもつながっている



Simple, Natural, Intuitive.

Fun & Connected

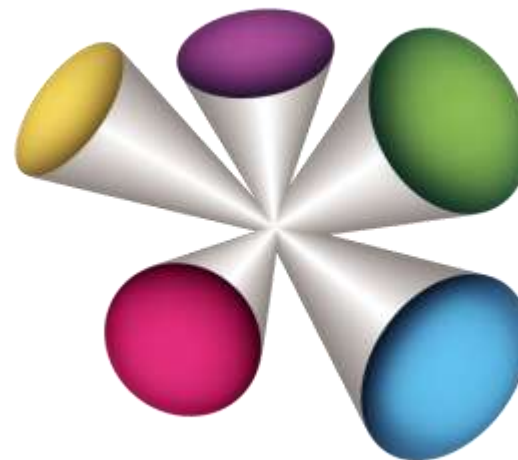


Open up.
Sense more.



本資料のお取扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより変動する事があります。従いまして、実際の業績などが本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。



株式会社ワコム 総合企画本部 IR室
TEL : 03-5309-1525 FAX : 03-5309-1503
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2
ハーモニータワー21階